

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 21	公益目的事業 19
主査名	高見淳史 東京大学准教授	
研究テーマ	デジタルコネクティビティと都市交通計画	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> <p>モビリティ新時代の入口にあつて都市交通計画と情報通信技術（ICT）の関係をいかに整理し、ICTを基盤とするサービスをどう受け入れ活用すべきかについては検討すべき点が多い。また、人の行動と ICT 利用に関するより良い理解を踏まえることが物的ーデジタル両者の適切な整合化を進める上で重要と考えられる。これらの問題意識に照らし、以下の通り研究を進めた。</p> <p>第一に、英国で従来の Local Transport Plan の改定版を“Local Transport and Connectivity Plan”の名称に変更している事例について文献調査を行った。Cambridgeshire and Peterborough の計画（案）では、Connectivity の語や概念が6つの Goals の1つとして Accessibility と Digital を包含し、すなわち交通手段間の接続性やアクセシビリティといったリアルだけでなくバーチャルの接続性も意味していること、そして双方の意味での Connectivity を高めることが移動の必要性和距離の低減（ひいては気候変動への適応や脱炭素化）や経済的繁栄の促進に貢献するものとポジティブに位置付けられていることなどが把握された。</p> <p>第二に、人の行動と ICT 利用の関係についての理解を深めるべく、社会生活基本調査のデータを用いた分析の方向を検討した。データ入手手続きの容易さを勘案して、まずは平成13・18・23・28年の調査票 A・B の匿名データ（個人等が識別できないよう調査票情報を加工したデータ）を利用することとし、その提供申出を行った。当該データはその後10月下旬に入手することができ、分析に着手している。</p> <b>下期へ向けて（課題等）：</b> <p>上記の第一について、交通計画の中に Digital connectivity の概念や言及が取り入れられた興味深い事例であるが、そのことが計画の内容に与えた影響の有無などを明快に理解することは容易でなさそうだというのが現時点での実感で、まとめ方に工夫を要すると考えている。</p> <p>第二について、令和3年に実施された最新の社会生活基本調査の匿名データは未だ公表されていない。今後、同年を含む調査票情報の利用を申請し、匿名データの分析を通じて得た知見を踏まえ、また書いたプログラムを流用して、改めて分析することを計画している。ただし ICT 利用に関わる設問（尋ね方）には調査時点間で差異があり、比較性に限界があることが想定される。</p> <p>今後は以上を継続して進めるとともに、研究メンバーが実施している関連の研究や実践についても情報共有いただき、討議を経て一連の成果として取りまとめる予定である。</p>		